

ID ^{注1)}	101202	公開レベル ^{注1)}	B	保管形式 ^{注1)}	電子	保管場所 ^{注1)}		前回ID	
-------------------	--------	----------------------	---	---------------------	----	---------------------	--	------	--

報告書名称 / 調査名称	平成22年度 白神山地世界遺産地域モニタリング調査等の分析 / ブナ林の長期変動調査						発行年月/報告年月	
							2011年	3月
							資料形式 ^{注2)}	報告書

調査機関	東北森林管理局	委託機関	株式会社森林テクニクス 青森支店
------	---------	------	------------------

調査開始年	1998年	調査期間	1998年	～	2008年
-------	-------	------	-------	---	-------

調査頻度 ^{注2)}	不定期 3 回	調査時期 ^{注2)}	—	—	—
---------------------	---------	---------------------	---	---	---

モニタリング計画	2012年3月 策定	区分 ^{注2)}	IIA	大区分 ^{注2)}	1	小区分 ^{注2)}	(1)
----------	------------	-------------------	-----	--------------------	---	--------------------	-----

調査箇所・範囲 ^{注3)}	目的・調査手法
------------------------	---------

核心地域 緩衝地域 周辺地域

GPS等の位置データあり

※周辺地域における調査箇所は備考欄に示す。

■調査手法
調査対象のデータは、東北森林管理局及び同青森事務所まで実施してきた調査報告書類であり、その内訳は、1998年（平成10年度）から現地調査が開始され、2011年（平成22年度）現在まで継続されている紙で提出された調査報告書である。これらの紙文書を電子データに変換するに当たり、「白神山地世界遺産地域モニタリング調査等の分析委託事業仕様書」に従い作業を実施した。
また、調査対象データの補足のため、過去の各調査受託機関への問い合わせにより収集された調査実施当時の野帳データ等も調査対象とした。

調査区域の名称：“青森側＝ヤナダキノサワ”、“秋田側＝カスケガワゲンリュウ”

調査年度：ヤナダキノサワ調査区が平成10、15、20年度で、カスケガワゲンリュウ調査区が平成11、15、20年度である。
調査対象木：特に断りのない場合は「幹」ベースでの分析結果株立ちしている個体は幹の集合体であると考え

結果概要（スペースに収まるように入力してください）

I-1. ブナの分布
① ヤナダキノサワ調査区
調査区内のブナは、生立木の中で樹種別に見ると、存在樹種の中で一番多いことが分かる。また、調査10年間に枯死に至ったブナは28本となっている。ヤナダキノサワ調査区内のブナは、平成10～20年度にかけての推移を見れば、若干減少傾向にあることがうかがえる。
② カスケガワゲンリュウ調査区
同じく調査区内の生立木を樹種別に見ると、ブナは存在樹種の中で突出して多いことが分かる。枯死木では49本が枯死していた。カスケガワゲンリュウ調査区でもヤナダキノサワと同様に、ブナは、平成11～20年度の間に若干減少していた。

I-2. ブナの林分構造
(1) 現存樹種に占めるブナの本数割合と胸高断面積合計の割合
ヤナダキノサワ調査区では、生立木本数割合を見ると、全体の約25%を占めている。次いで、ハウチワカエデ、イタヤカエデ、オオカメノキ、ホオノキと各年度とも上位5樹種について順位に変動がない。本数の割合だけを評価すれば、とてもバランスがとれた混交林に見える。
ヤナダキノサワ調査区のブナ（幹）は、本数割合では全体の約25%と少ないが、胸高断面積合計の割合では70%弱の値を示しており、本数のわりに胸高断面積が多い。このことから、大径木が多いのではないかとことがうかがえる。カスケガワゲンリュウ調査区もまた、胸高断面積合計の割合は75%強と非常に多くの割合を占めていた。カスケガワゲンリュウ調査区内でのブナの本数割合は50%強であったことから、ヤナダキノサワ調査区ほどは大径木ではないことがうかがえる。

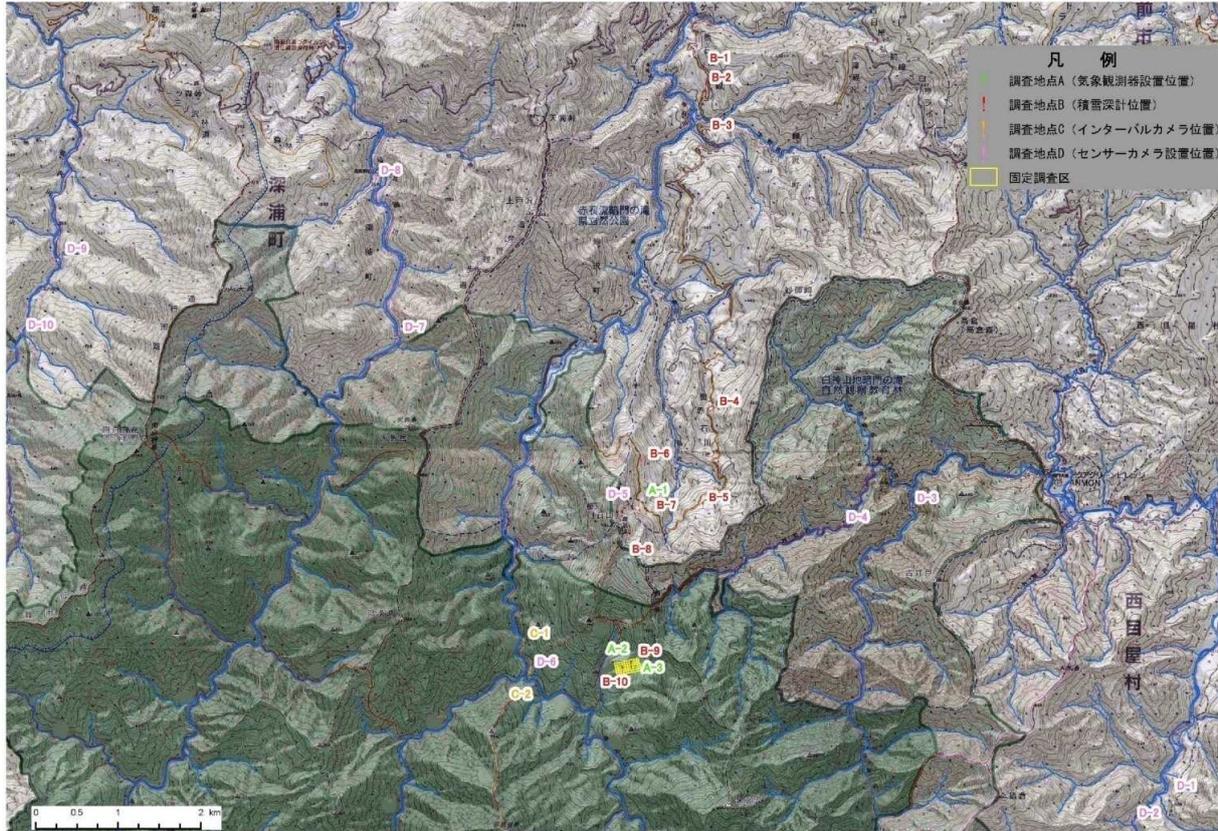
I-3. ブナの世代交代
調査開始間もない年度の倒壊林冠木でできた「空隙が埋まった箇所」の分析を試みたが、平成20年度の調査時にも空隙のままになっており、この10年間で3回という短い調査期間では、まだダイナミックな変化には至っていないことがうかがえた。

問い合わせ	農林水産省 林野庁 東北森林管理局 〒010-8550 秋田県秋田市中通5丁目9番16号 TEL:018-836-2014 《原本（データ）の帰属について》
-------	---

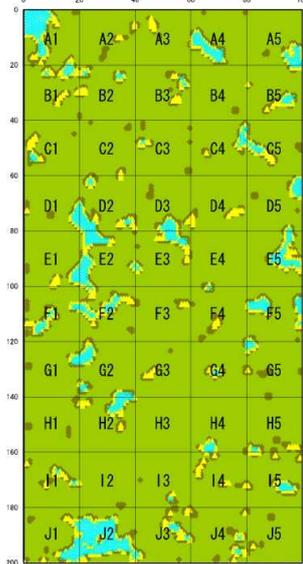
注1) 「ID」「公開レベル」「保管形式」「保管場所」については記入しないこと。
注2) ドロップダウンリストから該当する項目を選択すること。
注3) 該当する項目の口をクリックし、チェックを入れる。

備考

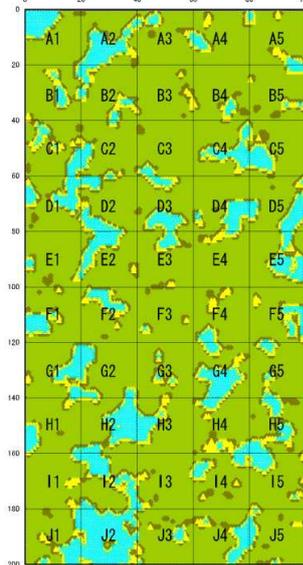
図17 調査地点等位置図(ヤナダキノサワ) 1/1



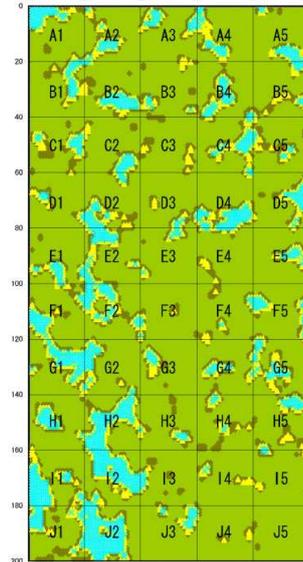
平成11年度
樹冠投影図新規作成



平成15年度
樹冠投影図新規作成



平成20年度
樹冠投影図新規作成



樹幹投影図 ヤナダキノサワ

凡 例	
■ canopy	完全な樹冠
◆ edge	50%以上枝葉
▲ border	50%以上空間
× hole	完全なギャップ
消失樹冠	
◆ d-edge	50%以上枝葉
▲ d-border	50%以上空間
× d-hole	完全なギャップ